

地域福祉・高齢化社会の備えについて、ほか

一般質問



丸岡 弘満 議員
(自民の風・誠真会)

問 市内高齢者施設の管理防犯体制について。

答 警備員を含む夜間の人員増や、防犯カメラの設置、エレベーターの工夫等、緊急マニュアルの整備など、各施設が創意工夫しながら防犯対策に取り組んでいます。

問 加西市や近隣市における手話通訳者の状況について。

答 加西市では、手話設置通訳者退職後の補充ができない状況が続いており、近隣では、三木市3名、西脇市1名、小野市2

名、加東市2名、多可町1名となっています。また、手話通訳者を設置しているのは、県内41市町中、23市町となっています。

要望 三木市役所では、職員を対象とする手話通訳者養成研修費用が計上されるほか、常駐する手話通訳者がタブレット端末を用い、手話画像の送受信によるコミュニケーションを図っている。ぜひ定住自立圏における相互協力の実現について検討していただきたい。

消防団について

問 北播操法大会に向けた練習場所の確保について。

答 非常に熱い思いを持って日吉部が連日訓練していた消防本部には、隣接する警察署の事情に配慮する必要もあるため、今

後は、消防団とも連携をしながら、適切な訓練場所の確保を検討したいと考えています。

問 各自治会の消防機材更新は十分な補助がされ、スムーズに行われているのか。

答 消防自動車、ポンプ等の更新に対しては、購入額の2分の1を補助しています。自主防災組織の訓練補助、消防ホース等の更新に対しても、今年度42町が利用しているところです。

要望 半額の補助があったとしても、小型ポンプとポンプ車（国正部・北条部）では、金額が1桁も異なり、地元の負担も大きくなる。杓子定規に2分の1補助とするのではなく、個別に補助率を定めるなど対応を検討していただきたい。

河川の川底堆積物について、ほか

一般質問



衣笠 利則 議員
(21 政会)

①河川の安全対策について

問 昨今、短時間の集中豪雨が引き起こす、河川の氾濫による災害が多く発生している。加西市の川には葦や土砂が多く堆積しているが、浚渫の計画はどのようになっているか。

答 県も市も毎年浚渫工事を行っています。河川の数も多く、なかなか全てにおいて十分とはいかない状況です。今後、地元の要望を確認しながら対応していきたいと考えています。

また、河川の断面3割以上に土砂が堆積していれば、基準に基づき土砂浚渫を行うとするルールがありますが、3割未満であっても、「景観上好ましくない」「水の流れが非常に悪い」等の場合には、地元の方と確認の上で浚渫を行うことで、未然の災害防止にもつながるものと考えており、現場の状況を見ながら対策を講じていきたいと考えています。

②人口施策の現状と今後の取り組みについて

問 施策の実施状況と今後の取り組みについて。

答 施策としては、住宅の需要と供給のマッチングを図るために、住宅建設のための「宅地供給促進補助制度」と、供給側のための「賃貸共同住宅等建設促進補助金制度」を新設しており、後

者については、8月までに51棟の建築確認申請があり、415戸の住宅を供給することができる運びとなっています。

また、若者定住促進として加西市独自の取り組みである「UJIターン促進補助金交付制度」が年々利用者数をふやし、今年度は158名となっています。

そして、今年4月から8月（5カ月間）の社会動態は、例年の転出者数と比較して約100人程度減少しており、人口増施策を積極的に取り組んだ成果と考えています。

（市長）今後は、策定した地域創生戦略や人口ビジョンを仕上げていくことが大切であり、安心・安全で、子育てにやさしい加西市が意欲的に取り組む姿は、必ず注目されるものと信じています。